

No.107



# 愛媛県 青少年赤十字だより

「空は世界へ」



愛媛県青少年赤十字指導者協議会

会長 **黒田 眞生**  
(西予市立中川小学校長)

「空は世界へ」について 空は世界を  
だいている・・・」四番まで歌詞を見ず  
に歌うことができます。私に通っていた  
小学校、中学校は青少年赤十字の加盟校  
でした。毎年行われた赤十字登録式では  
この歌を歌いました。また、月に一度の  
赤十字週間の朝にはこの歌が流れ、聞き  
ながら奉仕作業をしたり挨拶運動をし  
たりしました。教員となって三十七年目  
を終えましたが、その間勤務したすべて  
の学校が加盟校であり「空は世界へ」を  
聞かない年はありませんでした。

さて、私が小学生になったのは昭和  
四十年代の後半でした。高度経済成長期  
が終焉を迎えるころです。終戦から二十  
数年が経っていました。沖縄返還や  
中東戦争によるオイルショックなどが  
あった頃でした。戦争を経験した世代が  
まだまだ若く、生々しい話を聞くことも  
ありました。もちろんその当時はどのよ  
うな時代に自分が生きているかを考え  
たり感じたりすることはありませぬし、

「空は世界へ」の歌詞の意味を特に考え  
たこともなかったろうと思います。た  
だ、小学校、中学校を通して、歌ったり  
聞いたりすると何だか元気が出たりさ  
わやかな気持ちになったりする歌だな  
と感じていました。

この稿を記すにあたり、改めて調べて  
みると「空は世界へ」が生まれたのは  
一九四六年のことだそうです。日本赤十  
字社が青少年赤十字の戦後再建を進め  
る中、歌詞を一般から募集し、杉江健介  
氏・杉江健次氏の合作「空は世界へ」が  
選ばれ、橋本國彦氏が曲を付けられたそ  
うです。終戦の翌年であり、復興への道  
のりも混々としており、未来の見えに  
くい時代だったろうと思います。そのよ  
うな中で生まれたこの歌は、なんと希望  
にあふれ優しく誇り高いのだろうと感  
じます。そして、青少年赤十字の実践目  
標である「健康・安全」「奉仕」「国際理  
解・親善」が多分に含まれた歌詞であ  
るように思います。昭和・平成・令和

と八十年間歌われてきた「空は世界へ」  
が、今後もずっと歌い継がれていくこと  
を願っています。

私は青少年赤十字加盟校の児童・生  
徒・教員として活動に関わってきました  
が、愛媛県青少年赤十字指導者協議会の  
役員として関わらせていただいたのは  
二年間だけです。その間、赤宗前会長を  
はじめ、長年青少年赤十字活動に取り組  
まれ、歴史を積み上げて来られた先生方  
に数多く出会いました。また、今年度青  
少年赤十字研究会で発表いただいた松  
野町立松野西小学校をはじめ、研究に真  
摯に取り組まれる先生方にお会いしま  
した。また、事務局の方々には常に活動  
を支えていただきました。敬意と感謝の  
気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

愛媛県青少年赤十字指導者協議会で  
は、より充実したより参加しやすい活  
動や研修を行うため、方法を工夫した  
り新しい取り組みを進めたりしていま  
す。青少年赤十字レベルアップセミナー  
やリーダーシップ・トレーニング・セン  
ターの日程や内容の見直し、JRC未来  
チャレンジプロジェクトの実施など  
です。加盟各校の先生方におかれまして  
は、活動や研修に積極的に参加いただき  
ますとともに、今後ともご支援ご協力  
をお願いいたします。

《指導者協議会総会・研修会》

四月二十二日（木）日本赤十字社愛媛県支部・研修室で、令和七年度愛媛県青少年赤十字指導者協議会総会・研修会を開催しました。

本総会では、事業報告と会計・監査報告に続き、近年の活動状況及び各校負担軽減の観点から、会費を廃止し、必要経費は日赤からの助成金により賄うため、会則の一部を改正しました。

また、研究推進校による実践報告（西条市立三芳小学校）と推進報告（松野町立松野西小学校）がありました。



《高校生連絡協議会 ～春の総会～》

五月二十五日（土）日本赤十字社愛媛県支部・研修室で開催し、五校から四十四名の参加がありました。

高校生役員メンバーが企画・運営し、「すべての人に健康と福祉を」をテーマに、グループワークを行いました。



《リーダーシップ・トレーニングセンター 指導者養成講習会に参加して》

松山市立素鷲小学校 教諭 一色 昭宏

青少年赤十字についての見聞を広め、愛媛県の青少年赤十字の活動を広げていくために、講習会に参加させていただきました。講習会では、目的は違えど、使命感や責任感を同じように強くもった全国の小学校から高校の教職員や日本赤十字社の各支部の方々と二泊三日、共に様々なことを学びました。ホームルーム、先見、ボランティア・サービス……など、青少年赤十字の理念や精神に触れる中で、戸惑いながらも刺激的で新鮮な時間を過ごすことができました。その中で、本校の子どもたちや先生方にどのように還元していくか、また、どのようにして本校での研究に結び付けていくかを考えながら、活動に臨みました。各プログラムを通して、他県での青少年赤十字活動の実情や課題について情報交換をしたり、活動の意義について考えたりしたことで、指導者の一員として自ら進んで学ぼうとする行動力が身に付いたように感じます。また、掲示板によって注意深く情報を確認し、グループで声を掛け合いながら課題を解決していく、言わば主体的・協働的に学ぶことができるモデルの



ような活動を身をもって体験できたことは、教師としてだけでなく、一人の人間として大きく成長できたように感じました。

今回、同じホームルームになった先生方とは、今もお、連絡を取り合い、刺激をもらい助け合う同志としての関わりが続いています。それも、本講習会を通じて得られた貴重な意義だと思います。ここで得た使命感や出会った方々との絆を大切に、それらを還元していくためにも助けを必要とする人たちに對して、自らできることを考え「気づき・考え・実行する」ことのできる温かい支援の輪を本校でも広げたいと思います。

《青少年赤十字レベルアップセミナー》

八月一日（金）日本赤十字社愛媛県支部で、青少年赤十字レベルアップセミナーを開催しました。

当日は、十六名の先生方にご参加いただき、授業で役立つプログラムを体験することをテーマに掲げ、「防災教育プログラム」「世界の人道危機の現状と課題」「子どもの命を守る講習」などを実施しました。

《参加者の声》

。教育現場に特化したものだったので、自校だったらと想像しながら学ぶことができた。

。講義やワークショップ、すべてにおいて「何かを得られる」ものであり、これからの教育にも、自分身の人生においても役に立つと感じた。

。青少年赤十字だからと特別何かをするのではなく、人のために働いたり活動したりすることが喜びに変わるような指導、支援をこれからの学校現場でしていきたいと感じた。

。青少年赤十字の態度目標である「気づき」「考え」「実行する」ということは学級経営を行っていく中でとても大切であるということを感じた。自分のためだけでなく、周りのことも考えて行動をすることで思いやりや優しい心が育まれるのだと思う。勉強を教えることはもちろんだが、心を育むために教員としてまずは自分がお手本となれるような行動をした上で子どもたちにも伝えていきたい。

。「赤十字の活動」として時間を取って活動することだけが青少年赤十字の活動ではなく、日々様々な場面で青少年赤十字の意識を持って声かけや環境をつくることで、一人でも多くの子どもの赤十字の意識が変わってくると思った。

### 《青少年赤十字リーダーシップ・

### トレネーニング・センター》

八月九日（土）日本赤十字社愛媛県支部で開催し、

高校生十五名の参加がありました。

当日は、「防災教育プログラム」「二次救命処置」「SDGs」についてのプログラムを実施し、参加者同士がコミュニケーションをとりながら学びを深める良い時間となりました。

#### 《参加者の声》

。防災教育プログラムではストーリーやラップを使ってタワーをつくるときに班員とお互いに意見を伝え合って協力しながら楽しく学びました。災害が起こった時も同様にコミュニケーションを取りつつ協力し合いたいと思いました。

。ただ学ぶだけではなく、学ぶ理由を知ってから学んだほうがより頭に残りやすかったです。

。他校の人と班になって活動することは、普段生活しているだけでは味わえない貴重な機会だと感じました。

。心肺蘇生は思った以上に大変だったが、命を救うために大切なことなので、自分の命を守りながら身近な人をはじめとした沢山の人を助けたいです。SDGsワークショップでは、国際交流において、よりよい社会にするために交流の機会を増やし、お互いの文化を尊重することが大切だと考えました。

。災害や戦争が起こっても、今日のように、誰かとか

コミュニケーションをとって、人種・信条に関係なく協力し、多国籍主義を守れる人になりたいと思った。

。このトレネンを通じて問題解決のためには知識だけでなく、コミュニケーションをとることも必須であると感じ、積極的に自分の意見を出し、行動にうつすことを意識して動くようにしたい。

。今回取り組んだストーリータワーや多国籍主義を達成するために何ができるか等、すべてのプログラムをこれからの自分や社会で生かしたいです。



# 第六七回青少年赤十字研究会を終えて

松野町立松野西小学校

校長 水野 由美

十一月七日、県内外から百名を超える学校関係・赤十字関係の皆様に参加いただき、本研究会を開催いたしました。

本校は、令和六・七年の二年間の指定を受け研究を始めるに当たり、児童と保護者、地域の実態を踏まえ、研究主題を「共に学び、生き生きと学習に取り組む児童の育成―地域とのつながりを意識した体験活動の実践を通して―」としました。また、地域における防災・減災が喫緊の課題であるという認識のもと、青少年赤十字の「健康・安全」と「奉仕」の視点から、防災教育を研究の柱の一つとして取り組んできました。

本研究会では、全学年で仲間や地域とのつながりを意識した授業を公開するとともに、「わくわくチャレンジ集会」では、防災をテーマとした縦割り班でのワークシヨップを実施いたしました。児童が、仲間や地域とのつながりの中で、「健康・安全・奉仕」について考え、自らの思いを生き生きと表

現しようとする姿を見ていただきました。また、防災強化アドバイザーの山口様の「大災害を生き抜く！」と題した御講演では、地域の実情を踏まえた専門的なお話で、学校における防災教育の重要性を再認識させられるとともに、今後、取り組むべき方向性についての示唆も得られ、大変貴重な学びとなりました。

今回、皆様からいただきました御意見、御示唆を真摯に受け止め、青少年赤十字活動を核とした教育実践に努めてしていく所存です。児童が自ら命を守り、さらには地域の一員として周囲と助け合うことができる、強さと優しさを備えた、たくましく生きる児童の育成に今後も力を注いでまいります。最後に、二年間の研究を支えていただきました日本赤十字社愛媛県支部の皆様、並びに本研究会開催に際し、御支援・御協力いただきました関係者、保護者や地域の皆様に、心より感謝しお礼を申し上げます。

## 研究主題の概要

《研究主題》  
共に学び、生き生きと  
学習に取り組む児童の育成

～地域とのつながりを意識した  
体験活動の実践を通して～

### 《研究の仮説》

一、児童の興味に基づき、地域のよさを生かした体験的な活動の工夫をすれば、心身共に健康で、主体的・協働的に活動する児童が育つであろう。

二、青少年赤十字の態度目標「気づき・考え・実行する」を意識し、授業展開の工夫を行えば、対話を通して考えを深め合い、生き生きと自分を表現することができる児童が育つであろう。

### 《研究の内容》

#### 一、特別活動部

教育活動の見直しを行い、内容を整理した。赤十字登録式の再開や毎月二十日は松西つ子の日と設定して奉仕の心の育成を図った。学校や友達のために自分たちがしたいことを代表委員会に提案し、全校遊びや奉仕活動の内容などについて話し合い、児童主体の特別活動の推進を図った。また、地域や家庭と連携しながら防災教育を推進した。集会活動の時間を確保し、異学年での話し合いの場を設定することで、縦割り班活動を充実させた。

#### 二、授業研究部

授業展開に、「気づく手立て」「考える手立て」「実行する手立て」を取り入れ、授業を通して態度目標の実践を図った。また、一人一人の表現力を育成するために、話し合いの場を工夫した。

### 《研究の成果と課題》

地域のよさを生かした体験活動の工夫、赤十字の態度目標を意識した授業展開、防災教育を軸とした体験活動の充実により、主体的に考え、行動することができる児童が増えてきた。また、縦割り班活動や代表委員会での話し合い活動の工夫により、協働的に活動する児童の姿が見られるようになった。

地域とつながった体験活動を通して、人との関わりが増え、人の役に立つことに喜びを感じる児童が増えた。

児童一人一人が、生き生きと自分を表現し、対話により自分の考えを深めることができるよう、引き続き、授業改善や特別活動の工夫を行いたい。

また、地域の人とのつながりができたが、その場だけになっているように感じる。さらに地域とのつながりを大切にした教育活動を目指し、工夫した取組を行いたい。



# 研究会報告

## 松野町立松野西小学校

### ○集会活動

「まもるいのちひろめるぼうさい」を活用し、ワークシヨップ「救援物資を運べ！」を行った。5分間で物資に見立てた様々な物を、限られた道具を使って遊ぶ活動である。「どうすれば、時間内に運べるか」という問い掛けを元に、班で遊ぶ道具や順番などを話し合いながら2回行った。1回目は、少しの準備だけで活動が始まり、児童は慌てた様子であった。しかし、2回目は作戦タイムを十分に取った後に活動を行ったので、運び方を工夫し、半分の班が時間内に物資を運び終えた。終末には、各学年で活動を振り返り、工夫した点や活動を通して考えたことなどを話し合った。

活動の中で、上学年は下学年に寄り添いながらサポートしたり、友達の見聞きながら使う道具や順番を決めたりして、リーダーシップを発揮していた。下学年は、上学年のアドバイスを参考にしながら取り組んだ。どの班も仲良く協力しながら活動し、どの子も自分の役割を果たそうと頑張る姿が見られた。感想発表の様子から、発達段階に応じて、協力することの大切さや話し合いをすることの意義などを理解していた。今回のワークシヨップは、体験を通して児童のコミュニケーション能力の育成につながった。

### ○公開授業

第一学年国語科「たぬきの糸車」、第二学年生活科「町のすてき つたえたい」、第三学年体育科「みんなでチャレンジャーボール」、第四学年算数科「面積」、第五学年国語科「日常を十七音で」、第六学年学級活動「あなたの大切なもの」の公開授業を行った。

一年次の研究成果と課題を検討し、児童一人一人の表現力・コミュニケーション能力の育成を図るために、どの授業でも、「気づく手立て」・「考える手立て」・「実行する手立て」が盛り込まれていた。登場人物の心情を読み取り、新たなせりふを考えるときや、ボールの技を仕上げるための工夫、複合面積を求める方法を話し合うときなどに児童同士が活発にコミュニケーションを図る姿が見られた。

町探検で出会った人との思い出を伝える話し合い、不器男記念館館長との俳句作り、松野町赤十字奉仕団の方との話し合いなどを通して、地域の大人と児童がつながり、地域の良さを改めて感じることができた。

### 【分科会】

#### ○第一分科会

教育課程の実施に青少年赤十字をどう生かせばよいか

松山市立素鷲小学校より、教育課程全体を通して、協働的・体験的な学びをもたらず取組が紹介された。教師の指導の在り方、ウクライナ支援への取組について協議した。それらの取組をすることで、児童自らめあてを設定するなど、自主性に変化が見られている。また、青少年赤十字の理念を教育課程に生かすことで、より系統的で効果的な教育課程を編成できることを学んだ。

#### ○第二分科会

地域と一体となった児童生徒の健全育成に青少年赤十字をどう生かせばよいか

今治市立波止浜小学校より、豊かな地域教材を教育活動に生かし、地域とのつながりを重視した取組として、ボランティアの活用やドローンを活用した歴史的資源の教材化などの事例が紹介された。地域に誇りと愛着を持ち、児童が自ら考えて行動できる実践力を育てるためにどうすればよいか協議した。学校教育に地域は欠かせない。

地域との連携を大切にし、それぞれの立場で青少年赤十字に携わり、児童生徒の健全育成につなげていくことが必要であるとの助言があった。

### 【全体会】

#### ○指導助言 河野圭美指導主事

(愛媛県教育委員会義務教育課)

児童の主体性を尊重した話し合い活動・体験活動が実践されている。学習過程に「気づき、考え、実行する」を位置付けることが、他者と関わり解決策を見付け出す主体的な学びの元となっている。地域の良さを生かした体験活動、防災教育、縦割り班活動により、つながり、思いやりが広がっている。今後とも体験から学ぶ機会を増やし、力を身に付けてほしい。この実践成果を広く共有したい。

#### ○講演 山口 賢司氏

(宇和島市防災強化アドバイザー)

「大災害を生き抜く！」

南海トラフ巨大地震に備えてほしい。松野町は、震度6強が想定されている。この地震の特徴は、地震の揺れの長さだ。1分以上揺れたら津波から逃げる行動をとってほしい。また、停電、断水、道路の液状化、家屋倒壊などが同時多発的に起こることを想定しておくことが大事である。

近未来に必ず起こる南海トラフ巨大地震での被害を想像し、各個人が生き続けるための対策を今日から取り組んでほしい。危機管理は想像力。最悪を想定し、最善を尽くすことが大災害を生き抜く力となる。

《高校生連絡協議会》 秋の総会

十月十九日(日) 日本赤十字社愛媛県支部・研修室で開催し、六校から二十一名の参加がありました。初めにアイスブレイクを行い、仲を深めた後、役員メンバーによる「災害に備えて私たちにできること」をテーマにした防災クイズや応急手当についての学習、グループワークなどが行われました。南海トラフ地震に備え、高校生たちが自らできることを話し合いました。



《青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会》

十一月十五日(土) 日本赤十字社愛媛県支部及びオンラインで開催し、青少年赤十字加盟校児童・生徒や各地域の赤十字奉仕団員など総勢一・二三名が参加しました。

大会では、アジア・大洋州地域の方々を使用する、洪水災害を備えた緊急救援機材「給水・衛生 災害対策キット」の整備のための一円玉募金の贈呈や、青少年赤十字加盟校の児童や各奉仕団員による体験発表、長年、青少年赤十字活動を続けている学校と指導者の表彰を行いました。ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

《赤十字国際セミナー2026》

一月二十四日(土) 日本赤十字社愛媛県支部・研修室にて、国際社会が直面する人道課題について理解を深め、赤十字の理念と国際的な人道活動の役割を学ぶことを目的に、当セミナーが開催されました。松山市内の高校生を対象に行われ、当日は二十二名の参加がありました。本社から講師を招き、国際人道法についての講演やロールプレイング形式で国際人道法を学ぶ「レイドクロス」を行い、体を動かしながら活動しました。

現在世界中で起きている戦争や紛争に関するニュースに関心を持ち、自ら学んでいただけることを期待しています。



《青少年赤十字指導主事対象研究会に参加して》

愛媛県教育委員会義務教育課

指導主事 河野 圭美

赤十字の研修会に参加し、赤十字の活動や理念には、学校教育の充実・発展につながる内容が数多く含まれていることを改めて実感しました。

特に、赤十字活動の根底にある「人間を救うのは、人間だ」という考え方は、科学技術が想像を超えるスピードで進展し、創造的能力を持つ生成AIの進化・普及が著しくなるなど、様々な要因によって人々の価値観が大きく変わりつつある中、子供の人格を形成す

る教育活動に携わる私たちが忘れてはならないことだと強く感じました。子供たちに、人として大切な「優しさ」や「思いやり」をしっかりと意識させ、自分や周囲の人々の幸福のために生かしていきけるように育んでいくことは、子供たち自身の豊かな生き方にもつながっていくものと思います。これから成長するにつれて、解決の難しい課題に直面するであろう子供たちが、主体的に課題に向き合い、周りの人と関わりながら解決策を見いだしていくことができるようにするためにも、学校の様々な教育活動の中で、「気付き・考え・実行する」という過程を繰り返し実践していくことが重要であると感じています。

社会の多様化が進む今だからこそ、より一層「優しさ」や「思いやり」を大切にしながら、子供たち一人一人が自分の個性を輝かせ、他者と共生し、豊かな社会を築いていく力を身に付けられるよう、本県の学校教育の充実に努めたいと思います。

中予教育事務所地域教育推進課

指導主事 大上 航太

八月六日に日本赤十字社本社で開催された青少年赤十字研究会に参加させていただきました。青少年赤十字を推進する意図や意義について、学校教育現場での具体的な実践事例やその成果を通して深く学ぶことができました。

本研修会において特に重要だと感じたのは、青少年赤十字の三つの態度目標「気づき」「考え」「実行する」が、学習指導要領が掲げる「生きる力」、すなわち「自ら課題を見つけ、学び、考え、判断して行動する力」を育むことと密接に関連している点です。講義で紹介された問題解決的な単元学習の事例から、青少年赤十字の精神が学校教育の内容と強く結びついて

いることを再認識しました。

また、学校が青少年赤十字に加盟することで提供される様々なプログラムの特徴や活用事例についても理解を深めました。学校教育に欠かせない防災教育において、赤十字社が持つ知識、技能、人材、施設を有効活用できることは大きな利点です。特に、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」は、自然災害に対する防災教育を充実させる上で非常に役立つ資料だと感じています。

今後の学校現場での教育活動の充実につながるように、今回の研究会で得た学びを積極的に指導・助言等に生かし、幅広く周知していきたいと思えます。

### 《青少年赤十字国際交流事業》

十月三十日（木）～十一月三日（月）日本赤十字社本社および近郊施設にて開催され、県内高校生メンバー一名が参加しました。

### 《参加者の声》

令和七年度青少年赤十字国際交流事業に参加して、文化の違いを越えて繋がったり、各国の状況を踏まえて意見を深めたりすることの大切さを実感することができました。

グループディスカッションでは気候変動について話し合いましたが、国ごとに状況が異なることを知りました。例えば、ミャンマーでは、焼き畑による森林破壊や、国民の八十％以上が調理で薪や木炭を使用していることが温室効果ガスの増加につながっており、洪水やサイクロンなどの自然災害が頻発しています。また、建物の耐震化の遅れにより、甚大な被害となります。こうした各国の状況を理解した上で話し合わなければ、協力して環境問題の解決に向かうことはで

きません。私たちの班では、個人の行動が気温上昇に影響を与えることを再確認し、それぞれの国へ戻ったら、緑溢れる涼しい空間作りや、サステナブルファッションの購入、食料廃棄物の肥料としての利用などに取り組んだり、紙芝居などの楽しい活動を通じて子どもたちへの啓発活動に取り組んだりすることを約束しました。

文化交流で伝統的な衣装や歌、ダンスなどを間近で見たり、フェアウェルパーティでファイトソングを合唱したり、同部屋の中国の方と会話がはずんだり、とても楽しい時間を過ごしました。今後、英語力を高め、積極的に海外の方と交流を深めたいと思っています。

### 《青少年赤十字スタディー・センター》

三月二十二日（日）～二十六日（木）山梨県山中湖村「東照館」で開催され、県内高校生メンバー二名が参加しました。

### 《参加者の声》

私がスタディー・センターに参加したきっかけは、昨年の活動報告を聴いた時から、とても興味があつたからです。全国から集まった高校生と関わりながら、成長できるところがとても魅力的でした。

私はこのスタディー・センターで、特にHRやグループワークでの話し合いと、フィールドワークが印象に残っています。普段の学校生活では意見が出ず、沈黙しがちな時でも、今回は全員が積極的に意見を出し合っていて、初めて話し合いが楽しいと思いました。フィールドワークでは、ゴールすることは出来ませんでした。難しい状況の中でHRのみんなと協力し合い、より、お互いを知ることができました。さらに自分の行動がみんなに与える影響も知ることがで

きました。

私は、このスタディー・センターの活動を通して、国際理解についての考え方が変わりました。今までは、「助けたい」などのデサイアーばかりでした。しかし、思いが大きすぎると大事なところが見えなくなると知りました。大切なのは、一方的な支援ではなく、相手の背景やニーズを理解することだと気づきました。ここでの貴重な経験を、これからのJRC部の活動に生かし、日常生活の中で、常にみんなのために自分を生かして行動していきます

今回のスタセンを経て、私は防災に非常に関心がわきました。

他県の方はとても熱心で、防災活動のない地域から来た人たちも知識や技術の学習に集中していました。

その様子を見て私も防災に関して地域のために何かできないかと考えるようになりました。

もちろん、ほかの献血や福祉、JRC活動の継続といったことにも各講座や講座メンバーとの交流を通じても知識を得て、今後の活動の対象として考えています。

他にも自己と他者への理解、メタ認知や、アイスブレイクの役割のようなJRC以外の活動でも通ずるようなものも得られました。

しかしそれ以上に大切なこととして、仲間との協力という当たり前のように感じるものもの大切さを改めて実感しました。

そのようなところを含めて、愛媛やほかの合宿等の活動では得られないような体験をさせていただきま

令和八年度 事業計画

- 四月 県指導者協議会総会・研修会（日赤支部）
- 五月 第一回指導者協議会常任委員会（日赤支部）  
高等学校指導者協議会（日赤支部）  
高校生連絡協議会（春の総会）（日赤支部）  
トレーニング・センター指導者養成講習会（東京都）  
賛助奉仕団総会（松山市内）
- 七月 全国指導者協議会総会・研修会（東京都）  
全国賛助奉仕団協議会（東京都）
- 八月 レベルアップセミナー（松山市内）  
指導主事対象研究会（東京都）  
リーダーシップ・トレーニング・センター（松山市内）  
第二回指導者協議会常任委員会（日赤支部）  
高校生連絡協議会（秋の総会）（日赤支部）  
中・四国ブロック指導者協議会（徳島県）  
青少年赤十字国際交流事業（東京都）  
中・四国ブロック国際交流事業（東京都）  
中・四国ブロック賛助奉仕団連絡協議会・研修会（島根県）
- 十一月 青少年赤十字中央講習会（東京都）  
第六十八回青少年赤十字研究大会（松山市立素鷲小学校）  
第三回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
- 二月 第三回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
- 三月 高校生スタディー・センター（山梨県）



十二月二十日、青少年赤十字メンバー等で、とべ動物園の清掃を行いました。

今年度の一枚

発行・編集

愛媛県青少年赤十字指導者協議会  
日本赤十字社愛媛県支部

〒790-0854 松山市岩崎町二丁目3-40  
TEL 089-921-8603 FAX 089-932-9160  
<http://www.ehime.jrc.or.jp/>

(発行日 令和8年3月31日)

令和7年度  
青少年赤十字加盟状況

校種	校数	メンバー数
幼稚園・保育所・こども園	54園	5,554名
小学校	170校	40,118名
中学校	52校	12,190名
高等学校	13校	1,166名
計	289校	59,028名